横浜市立 東本郷小学校　　令和4年度　学校評価報告書

重点取組分野	令和　4　年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
生きてはたらく知	①子ども主体の「対話」を取り入れた授業を展開し、子どもたちが自ら学ぶ楽しさを感じるようにする。 ②問題解決型の学習を通して、表現力や説明力、活用能力を高めるようにする。 ③スキルタイムや家庭学習を活用し繰り返し学習することにより、学習習慣を整え基礎基本の定着を図るようにする。	①対話を意識した授業を展開することで、子ども同士の学びの姿が見られることが増えた。 ②子どもの疑問を生かした学習を通して、思いを伝えたり考えを説明したりする力が付いてきている。 ③何度も繰り返し学習する機会を設け、学習に向かう態度の向上を目指したが、引き続き指導する必要がある。	B
豊かな心	①人権標語を学級ごとに作り、常時掲示し、学校全体で人権を大切にする風土を作る。振り返りも定期的に行う。 ②人権週間に1年間の人権目標の振り返りを行い、人権について考えて生活してきたよさを実感し今後に生かすようにする。 ③みどり養護学校との交流や児童会活動を工夫して実施し、さまざまな人とのよりよい人間関係の基盤を培うようにする。	①②人権標語について振り返るだけでなく、人権集会で人権ビンゴを行うことを通して色々なクラスの大切にしていることにもふれることができた。 ③ みどり養護学校からの作品交流に4年が感想を書き、プレゼントをした。今年度は交流はできなかったが、心の交流につながった。	B
健やかな体	①学校保健委員会では「手洗い・ハンカチ・せきエチケット」をテーマに健康に対する意識を高めるようにする。 ②体育の学習や児童会活動を通して、体を動かす機会や外遊びを推進するようにする。 ③年間計画に基づいた体力づくりや食育を教科・領域と関連させ、効果的に進めるようにする。	①手洗いアンケートや児童保健委員が行った手洗い実験やハンカチ実験の結果を動画にし、全校児童に見せることにより、正しい手洗いやハンカチの大切さの意識を高めた。 ②鉄棒や体つくり運動、バスケットボールや鬼ごっこ等、授業で扱った領域を外遊びで実践している児童が多く、意欲的に体を動かしている。 ③3年の国語の大豆の説明文や5年の社会科でお米を育て収穫、食べる経験等教科と関連させた食育を行うことができた。	B
地域学校協働活動	①学校運営協議会を充実させ、PTAや地域と連携し、生活科・社会科の学習や総合的な学習、体験的な学習の充実を図るようにする。 ②学校運営協議会や地域の諸機関と連携し、地域に根ざした学校づくりに励むようにする。 ③地域コーディネーターと連携し、地域の特色を生かした人材や教材を見つけ、総合的・体験的な学びにつなげるようにする。	①PTAや地域との関わりはあったが、連携をして生活科や社会科や総合的な学習の充実を図ることが難しかった。連携をより多く取っていてるようにする。 ②学校運営協議会や地域諸機関との連携は行った。また、幼保小連携で近隣の園と交流行うことができた。学校から地域に関わっていけるようにする。③地域コーディネーターとの連携が不十分で地域の人材を生かすことができなかった。学校からどのような人材がいるかを聞き、教育活動に地域の人材を取り入れいく。	B
いじめへの対応	①いじめの未然防止や早期発見のために、いじめアンケート、YPアセスメントを活用し、日頃から児童の見守りや信頼構築に努めるようにする。 ②児童支援専任や各学年の児童指導委員を中心に、児童の実態把握と情報交換を行うようにする。 ③いじめ防止基本方針を基に、いじめ防止対策委員会を中核として全教職員がいじめに対する共通理解、児童の見守り、速やかな対応を進めるようにする。	①いじめの未然防止や早期発見のために、いじめアンケート、YPアセスメントを活用し、日頃の児童の見守りや信頼構築に役立てることができた。 ②児童支援専任や各学年の児童指導委員を中心に情報交換を行い、児童の実態把握を行うことができた。 ③いじめ防止基本方針を基に、いじめ防止対策委員会を開催し、全教職員でいじめに対する共通理解を行い、児童の見守り、速やかな対応を進めることができた。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①重点研やメンター研をはじめとする研究・研修の充実を図り、学校に求められる人材の育成と組織力の向上を図るようにする。 ②各部主幹教諭が統括的役割、各部主任が中心的役割を果たし、機能的な学校運営を推進するようにする。 ③働き方改革推進委員会を中心に各部会と連携をとり、仕事内容の精選を行い、負担軽減を図るようにする。	①重点研は成果をあまり成果を残すことができなかった。メンター研は1人2回ずつの授業研を通して、授業力の向上を図った。 ②主幹教諭の統括的役割や各部主任の中心的役割によって、全体的に部の機能性は向上したが、課題のある部もある。 ③会議設定日の授業時数を調整したり、学年便りの月行事予定を学校だよりに統合したりするなど、教職員の負担軽減となる取組をスタートさせた。	B
情報教育	①ICT活用を授業に効果的に取り入れ、教育活動全体ではぐくむ資質・能力（情報活用能力）の育成を目指すようにする。 ②児童が日常的にGIGA端末を活用する中で、情報を発信、受信する際のメディアリテラシーを身につけさせるようにする。 ③デジタル教科書などのデジタル教材を効果的に活用し、効率的な教材研究・授業準備を行うようにする。	①学年に応じたGIGA端末の使い方を模索し、ICTが効果的に活用できる場面を共有する場を作った。次年度、学年ごとに目指すべき姿をより具体的にしていく。 ②GIGA端末の使い方に関するきまりを作成・周知してきた。引き続き、使い方に関するモラルを高めていく必要がある。 ③デジタル教科書の環境を整備し、算数・英語などの教科で日常的に使用できるようにした。GIGA端末と合わせて活用することで、児童にとってもデジタル教材との距離が近づいた。	A
特別支援教育・児童理解	①東本郷スタンダードや月目標を活かし、教職員が同じ目線に立ち、どの学年の児童にも声かけできる環境をつくるようにする。 ②SSW、学校カウンセラーと連携し、学校・家庭・専門機関の連携を図る。必要に応じて、専門機関とのケース会議を設けるようにする。 ③教室・特別教室の整備を進め、だれもが安心・安全で充実した活動が行える環境づくりを行うようにする。	①スタンダードの共通理解や妥当性の検討を職員で行い、指導に生かした。月目標を児童に喚起する取り組みを児童会を通して意図的に行った。 ②一般級における支援を要する児童に視点をもち、ケース会議を行った。また、コンサルテーションを再開し、主に低学年を中心に、支援指導に生かした。 ③特別支援における教室整備について検討し、次年度予算化して整備する予定。	B
安全教育・管理	①児童が日常の安全な生活を実践していくために、各教科・道徳・特別活動等のあらゆる教育活動を通して、必要な資質や能力を身につけることを目指すようにする。 ②避難訓練を通して、的確な判断のもと自らの安全を確保するための迅速な行動をとれる能力を身につけることを目指すようにする。 ③災害や事故に迅速に対応できるよう、学校・家庭・専門機関の連携を図り、組織的に活動できる環境づくりを行うようにする。	①日常生活の中での安全に対する意識はまだまだ低い。継続して資質能力を身に付けられるようにしていく。 ②訓練を通して、自らの安全の確保に対する意識は身に付いてきている。 ③学校・家庭・専門機関の連携を取れるよう、これからも組織的に活動できる環境づくりを目指すようにする。	B

ブロック内評価後の気付き	今年度は、2回の3校合同授業研究会を行うことができた。授業研テーマを「子ども同士つながり、伝え合う」とし、一単位授業の中に対話の場面を取り入れた各教科の授業を参観し合った。合同授業研究会を通して、児童・生徒の実態や各教科の指導に関する情報共有を図ることができたが、ブロックで育成を目指す資質・能力や子ども像については、具体的なイメージ共有において課題がある。9年間で育てる具体的な子どもの姿を想起しながら、学びの連続性を意識した協議をしていきたい。また、部活動体験や中学校吹奏楽部の演奏交流を行うことができた。中学校生徒との交流を深め、中学校への円滑な接続を図る機会とした。
学校関係者評価	授業参観を通して、授業の中での対話や子ども同士の関わりを大切にしていることと、教職員の授業力が高まってきていることによって、子どもたちの学習意欲が高まっていると感じる。いじめへの対応では、子どもたちと教職員の日頃の関わりや信頼関係が大切であって、それが良くなりつつあると感じる。地域学校協働活動では、お世話になったスクールボランティアの方に感謝する会を催した。スクールボランティアの方にとっても、学校との関わりは大切に感じてくださっている。

中期取組目標振り返り	新しい中期取組のスタート年度として、9つの重点取組分野を設定し、これに取り組んだ。重点取組分野の担当部を明確にしたことで、初年度として具体的取組にどのように着手したり実現していったりするのかを各部で見通しをもつことができたように思う。学校評価では、地域連携などに取組分野としての課題があることが浮かび上がった。初年度としての反省をし、来年度にまたどこまで取組を進めるかを明確にし、学校教育目標・目指す子ども像実現に向けていきたい。